



私たち人間は、神によって「神のかたち」に造られました。ところが人間は互いに愛し合うことができず、自己中心で様々な欲望に支配され、ウソを言い、人を差別をし、平和を求めながらも戦争のない時代はありませんでした。

そのような私たちであっても、それでも人間は「神の目には尊い」（イザヤ43:4）存在です。神は私たちが本来の人間の姿に回復するためにイエスキリストを与えて救いを与えてくださったのです。

### ① 「ひとりである」大切さ

“神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。” 1:27

“あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。” マタイ6:6

### ② 「ひとりではない」生き方

“また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」” 2:18-

“一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。” 1コリント12:26-27

### ③ 愛し、助け手であるために

“神である主は、その土地の土で、あらゆる野の獣とあらゆる空の鳥を形造って、人のところに連れて来られた。…しかし、アダムには、ふさわしい助け手が見つからなかった。神である主は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。” 2:19-

<考えてみましょう>

- 私たちが「ひとりではない」存在であるということについて、話し合ってみましょう。何かをするために助けが必要であるということもありますが、人間はそもそもひとりで生きようには造られていないということについて、あなたはどのように思いますか。